SPANCRETE CORPORATION

Investors' Guide IR 2013 会社情報



工事終盤を迎えた北海道新幹線



株式会社スパンクリートコーポレーション

本 社

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-3

Tel: 03-5689-6311 Fax: 03-5689-6321

www.spancretecorp.com

JASDAO 〈JASDAQスタンダード・コード 5277〉

● みなさまとのコミュニケーションを大切に ●

インベスターズガイドについて —

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

■ おかげさまで50周年

当社は1963年、昭和38年3月23日に設立され、平成25年3月23日に50周年を迎えました。

設立から半世紀という長い間続けてくることができましたのも、みなさまの温かいご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

創業当初は苦しい時代が続きましたが、その後どうにか、それぞれの時代に合った販路を見出していくことができたと思っております。

めまぐるしい時代の変化に対応し続け、変化を恐れず、今後も小さくとも素晴らしい会社であり続けるよう、努力していく所存でございます。

名誉会長 村山好弘

■ 2013年3月期について

日本経済は、円高の長期化や電力料金の値上げなど先行きは依然不透明な状況が続いていた中、昨年末に誕生した 新政権によるデフレ脱却政策や日銀新体制への期待から円安、株高が進行しており、今後の景気回復に向けた期待感が 高まっております。

このような状況下、2013年3月期当社の業績は売上高40億4千9百万円(前期比29.1%増)、営業利益5億6千1百万円(前期比125.9%増)、経常利益5億7千2百万円(前期比99.6%増)となりました。当期純損益につきましては、財務体質の強化を目的とした投資有価証券売却損6千3百万円等を計上したことにより、当期純利益3億9千9百万円(前期比6.0%増)となりました。

事業別の業績は、次のとおりであります。

①スパンクリート事業

2013年3月期(第51期)は、当初の見通しどおり受注が好調であったため売上数量が前期比15.9%増加し、売上高は37億2千8百万円(前期比29.4%増)と増収となりました。また、前々事業年度の2011年3月期(第49期)後半に実施した構造改革の効果が顕著に現れたことに加え、営業成績も好調だったことにより営業利益3億9千1百万円(前期比226.8%増)と増益となりました。

②不動産事業

2013年3月期(第51期)は、賃貸ビル3棟の安定収益に加え、前期2012年3月に取得したオフィスビル1棟の賃料収入が加わり、売上高3億2千1百万円(前期比26.0%増)、営業利益1億7千3百万円(前期比29.6%増)となっております。

■ 2014年3月期の業績予想

2014年3月期は、鉄道関連の需要が一時的に減少に向かうこと、また、下半期の受注が不透明なこと等から、スパンクリート事業は売上数量の減少が見込まれます。不動産事業の賃貸ビル4棟の安定収益は見込まれるものの、売上高26億円、営業利益1億円、経常利益1億1千万円、当期純利益5千万円を見込んでおります。

なお鉄道関連の受注減少は1~2年間の一時的なものであり、中・長期的には順調な受注を確保できる見通しであります。

■ 配当の見通し

2013年3月期につきましては、普通配当10円に会社設立50周年記念配当5円をプラスし、15円の配当とさせていただきました。

2014年3月期につきましては、上述の業績見通しの達成を前提に1株5円の配当を予定しております。

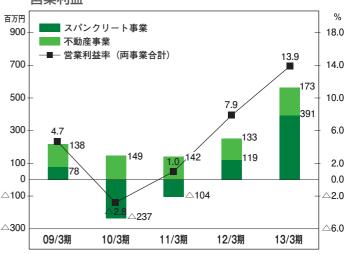
■ 今後の経営方針

- 1. スパンクリート事業の徹底した効率化を引き続き追求し、競争力を強化します。同時に顧客満足度経営を重視し、 徹底した製品の品質改善に努めます。
- 2. スパンクリートの販路を再構築、建築並びに土木の需要の増加している分野にエネルギーシフトします。
- 3. スパンクリートの生産ラインを活かした、より付加価値の高い新製品の開発に努めます。
- 4. 社内の改善活動に取り組み、生産性向上とコスト削減に注力します。
- 5. 収益基盤の安定化を図るために、不動産事業の着実な推進を図ります。

売上高

百万円 スパンクリート事業 8,000 ■ 不動産事業 7,000 6,000 5,000 4,350 4,049 4,000 3.191 3,156 3,136 3,000 2,000 1.000 0 11/3期 09/3期 10/3期 12/3期 13/3期

営業利益



損益計算書要旨

(単位:百万円)

						(羊区・口刀门)
	11/3期	(%)	12/3期	(%)	13/3期	(%)
売 上 高	3,156	100.0	3,136	100.0	4,049	100.0
売上原価	2,607	82.6	2,390	76.2	2,916	72.0
販売費及び一般管理費	517	16.4	497	15.9	571	14.1
営業 利益	31	1.0	248	7.9	561	13.9
営業外利益	14	0.4	38	1.2	10	0.2
経常利益	46	1.4	286	9.1	572	14.1
特別損益	△464	△14.7	△9	△0.3	△ 67	△ 1.6
税 引 前 当期純損益	△418	△13.3	276	8.8	504	12.5
法人税、住民税 及び事業税	7	0.2	6	0.2	43	1.1
法人税等調整額	29	0.9	△106	△3.4	62	1.5
当期純損益	△455	△14.4	376	12.0	399	9.9

スパンクリート事業	3,728百万円
不動産事業	321百万円

スパンクリート事業 391百万円 不動産事業 173百万円 共通費用 △3百万円

投資有価証券売却損63百万円投資有価証券評価損2百万円その他2百万円

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	11/3期	12/3期	13/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー 営業活動から得たキャッシュ	△364	286	714
投資活動によるキャッシュ・フロー 投資活動から得たキャッシュ	204	△621	97
財務活動によるキャッシュ・フロー 財務活動から得たキャッシュ	△172	△6	△44
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0	2
現金及び現金同等物の増減額	△332	△341	770
現金及び現金同等物の期首残高	2,548	2,215	1,874
現金及び現金同等物の期末残高	2,215	1,874	2,644

売上債権の増加・たな卸資産の増加 等による資金の減少より、税引前当 期純利益・減価償却費、投資有価証 券売却損益、仕入債務の増加が上回っ たため

有形・無形固定資産の取得による支 出より、有価証券及び投資有価証券 の売却による収入が上回ったため増 額

配当金の支払い

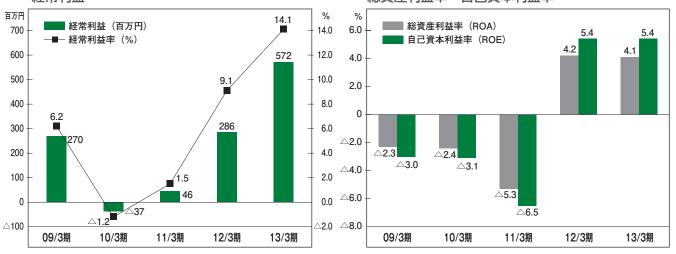
財務諸表コメント

〔13/3期〕

売上数量が増加し、また鉄道関連などの需要が好調であったことに加え、前々事業年度より実施してきた構造改革の効果が現れたことから営業成績が好調であり、前期に引き続き増益となりました。

経常利益

総資産利益率・自己資本利益率



貸借対照表要旨〈資産の部〉

貸供対昭表亜旨 /負債・納資産の部)

(単位:百万円)

貸借対照表要旨〈資産の部〉					
	11/3期	12/3期	13/3期	(%)	
資 産 の 部					
流動資産	3,433	3,196	3,927	40.3	
現金及び預金	1,930	1,589	2,359		
受取手形及び売掛金等	824	909	978		
有 価 証 券	491	390	Point ① 285		
たな卸資産	165	176	239		
繰延税金資産	_	106	44		
そ の 他	22	25	21		
固定資産	5,181	5,838	5,812	59.7	
有形固定資産	4,249	5,118	5,055	51.9	
無形固定資産	8	15	42	0.4	
投資その他の資産	923	704	714	7.4	
投資有価証券	698	629	639		
保険積立金	152	12	10		
その他	71	62	65		
資 産 合 計	8,614	9,035	9,740	100.0	

日安没际区间只	₹ '	作貝召	EODDD/	
				Ī

	11/3期	12/3期	13/3期	(%)
負 債 の 部				
流動負債	986	981	1,138	11.7
短期借入金	600	600	600	
その他	386	381	538	
固定負債	886	842	891	9.2
負 債 合 計	1,872	1,823	2,030	20.9
純 資 産 の 部				
株主資本				
資 本 金	3,295	3,295	3,295	33.8
資本剰余金	3,696	3,696	3,696	37.9
利益剰余金	△185	191	551	5.7
自己株式	△370	△370	△370	△3.8
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	△15	△9	Point ② 127	1.3
土地再評価差額金	322	408	408	4.2
純 資 産 合 計	6,742	7,211	7,709	79.1
負債純資産合計	8,614	9,035	9,740	100.0

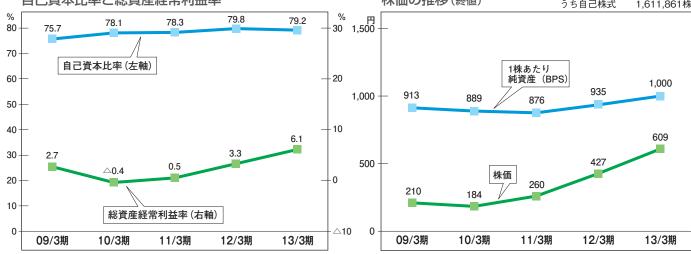
Point ① 有価証券売却のため減少

Point ② 株価の上昇により増額

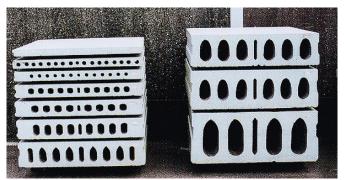
財務諸表コメント

岩瀬工場を閉鎖し、経済環境に合った生産体制を整え、筋肉質な経営基盤を築くことが出来ましたが、建設業界の不振や原材料の高止まりという逆境を完全に跳ね返すことが出来ず赤字決算となりました。 〔11/3期〕

長期的な景気低迷によりマンションをはじめとする建設需要減の影響を受けたものの、前事業年度後半に実施した構造改革の効果が 顕著に現れ始め黒字を確保することが出来ました。 〔12/3期〕



スパンクリート





スパンクリート標準製品。スパンクリートは縦方向に数個の穴をもち、PC鋼線によってプレストレスを与えられたコンクリート板です。床材として、また壁材として建築から土木まで多目的に使用可能な材料です。厚さ7cmから35cmまで17種類。 高耐力、ロングスパンが特長です。当社はスパンクリートの生産・販売を行っております。

創業当初からの防音壁の納入実績



北陸新幹線(黒部付近)



東北新幹線 (開業当時)

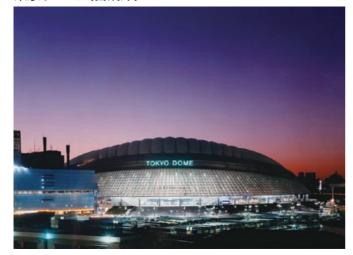


九州新幹線(緑川付近)



東北新幹線 (膝森付近)

東京ドーム (合成床)



六本木ヒルズ (床)



東京スカイツリー® (床)



スパンクリート50年の軌跡

苦難の創業期から今日にいたるまでに 日本を代表する多くの建物等に使われて まいりました。

ここに紹介できるのは、ほんの一例ですが いずれもその後の受注活動におおきな ステップとなったものです。

東京都庁舎 (合成床)



冷凍倉庫群 (外壁)



レインボーブリッジ(アラミド繊維床板)



資料請求、お問い合わせは…

株式会社スパンクリートコーポレーション IR担当 野崎京子・的場 舞 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-3 電話 03(5689)6311 制作協力:

株式会社プロネクサス 営業第3部第2グループ 大木整 〒105-0022 東京都港区海岸 1-2-20 汐留ビルディング 電話 03(5777)3014

トピックス

□東日本大震災復興への取り組み

2011年3月に発生した東日本大震災ではスパンクリートを使用した建物も多くの被害にみまわれました。 被害地域は、とりもなおさずそれは当社が得意とする大型冷蔵倉庫のある東北の港町でもあります。 スパンクリートは昭和45年頃からこれらの港町でたくさんの大型冷蔵倉庫に使われ今日にいたっております。 遅れていた復旧工事も昨年からようやく動き出し、かつての港町への出荷が再び始まっております。



女川魚市場冷凍冷蔵施設 (宮城県女川町)



石巻水産施設 (宮城県石巻市)



気仙沼漁協製氷·貯氷施設 (宮城県気仙沼市)



宮古漁業協同組合製氷·貯氷施設 (岩手県宮古市)



(㈱小野万本社工場 (宮城県気仙沼市)



(㈱スイシン本社・工場 (宮城県石巻市)

ひとこと



代表取締役社長 飯牟礼 聡

就任のご挨拶に代えて

6月から社長を拝命しました飯牟礼聡と申します。この場をお借りして、ご挨拶をさせていただきます。2013年3月期は記念すべき創立50周年に当たりましたが、この年を好調な決算で締めくくることが出来ました。

やはり一番の理由はみなさまからのご支援をいただいたことであります。紙上を お借りして、みなさまに改めて御礼を申し上げたいと思います。

今後は次の50年を見据えた体制を作り、会社の体質を更に強化し一段と筋肉質な会社にいたしたく、生産体制の抜本的改革、営業体制の見直しと新規需要の拡大、また高品質の製品開発等で新しい分野にも切り込んでいきたいと思っています。

会社の概要

 1.会社名株式会社スパンクリートコーポレーション (英文名) SPANCRETE CORPORATION

2. 設 立 1963年(昭和38年)3月23日

3. 資 本 金 32億9,590万円 (2013年3月31日現在)

4.役 員 代表取締役社長 飯牟礼 聡 代表取締役専務 村 山 典 子 取締役相談役 齊 藤 建 次

取 締 役 菊 池 透

* 取 締 役 坪 井 正 規

* 取 締 役 分 藤 潔

* 取 締 役 大 野 浩 司

** 常勤監査役森 康裕

** 監 査 役 阿 部 裕 三

** 監 査 役 松 岡 幸 秀

*は社外取締役です **は社外取締役です

5. 本 社 東京都文京区湯島2-4-3

T113-0034 TEL(03)5689-6311

仙台営業所 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-6-12 平和マンション旭ヶ丘208号室

T981-0904 TEL(022)272-1901

宇都宮工場 栃木県宇都宮市平出工業団地8-5

T321-0905 TEL(028)661-2211

6. 取引銀行 みずほ銀行(丸の内中央支店)

三菱東京UFJ銀行(神田駅前支店)

りそな銀行(上野支店) 三菱UFJ信託銀行(本店)

主要取引先

設計事務所 三菱地所(株)・(株)日本設計・(株)日建設計・(株)日建ハウジ

ングシステム·東電設計(株)·(株)松田平田設計·(株)梓設計·(株)創元設計·(株)横河建築設計事務所·(株)ジェイアール東日本建築設計事務所·独立行政法人鉄道建設·運輸施

設整備支援機構 (株)久米設計 (株)石本建築事務所 他

商 社 三菱商事(株)·三菱商事建材(株)·三井住商建材(株) 他 建設会社 鹿島建設(株)·大成建設(株)·清水建設(株)·(株)竹中工務

店·(株)大林組·前田建設工業(株)·戸田建設(株)·西松建設

(株)·三井住友建設(株)·鉄建建設(株) 他

大株主

1 三菱商事(株) 2 日本スパンクリート機械(株)

3 鈴木金属工業(株) 4 村山 典子

5 村山 知子

会社の沿革

1963年 3月 スパンクリート製造株式会社(旧社名)設立

資本金1,000万円 代表取締役社長 村山好弘就任

4月 資本金4,000万円に増資

7月 資本金1億円に増資

1964年 2月 宇都宮第1工場屋外生産設備完備 試作開始 営業開始

7月 資本金2億円に増資

1970年 10月 宇都宮第2工場建設完了 生産開始

1971年 4月 日本スパンクリート協会を設立 会長に当社代表取締役

社長村山好弘就任

1975年 10月 空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会(穴あ

きPC板工業協会)設立

会長に当社代表取締役社長 村山好弘就任

1976年 5月 JISA6511 (空胴プレストレストコンクリートパネル)

制定される 1979年 12月 資本金2億3,000万円に増資

1982年 12月 宇都宮工場 JIS指定工場となる

1984年 3月 スパンクリート合成床工法 建設大臣認定を取得

7月 宇都宮第3工場生産設備完了 生産開始

1988年 11月 資本金2億9,000万円に増資

1989年 5月 スパンクリート合成床工法 特許を取得

10月 資本金4億2,434万円に増資

11月 資木会14億9 759万円に増資

11月 岩瀬工場建設完了 生産開始

1990年 2月 スパンクリート合成床工法 発明大賞受賞

1991年 2月 社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパン

クリートコーポレーションに変更

4月 スパンクリート合成床工法 科学技術庁長官賞受賞

9月 株式を公開(店頭) 資本金32億3,459万円に増資 1992年 4月 当社代表取締役社長 村山好弘 黄綬褒章受賞(スパン

クリート合成床の発明考案など業務精励)

5月 株式を1対1.4 に分割 1993年 5月 岩瀬工場 JIS指定工場となる

1996年 7月 本社を文京区本郷4丁目に移転

2003年 8月 Jスラブ (組立床工法) 財団法人日本建築センターの構

造評定を取得

2004年 3月 明星プレテック株式会社(4月プレテック株式会社に社

名変更)の株式を100%取得

2005年 5月 宇都宮工場·岩瀬工場·設計部 ISO 9001認証取得

6月 原田穣代表取締役社長就任

11月 1単元の株式数を1,000株から100株に変更

2006年 3月 プレテック株式会社解散

10月 普通株式1株を2株に分割

2010年 6月 齊藤建次代表取締役社長就任

7月 本社を文京区湯島に移転

11月 岩瀬工場閉鎖

生産設備を宇都宮工場に統合

2013年 6月 飯牟礼聡代表取締役社長就任



宇都宮工場